

合成洗剤追放運動への取り組み

—原点に帰って—

釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部

前川和子

1. 地域の概要

岩手県釜石市は、リアス式海岸で有名な三陸海岸に位置する人口約4万2,000人の近代製鉄発祥の街である。私達が住んでいるのは、釜石市のほぼ中央にあり、尾崎半島を挟んで、尾崎白浜地区が釜石湾に、佐須地区が唐丹湾に面している豊かな漁業環境に恵まれた地域である。



図1 岩手県釜石市の位置

2. 漁業の概要

釜石湾漁協は、平成15年に、釜石、平田及び白浜浦の3漁協が合併して新たに出発した漁協である。私達が所属する白浜浦地区の正組合員は、256名、准組合員14名で、このうち女性部員は正組合員93名、准組合員12名を占めている。

ワカメ、コンブ、カキ及びホタテの養殖漁業とアワビ、ウニの採介藻漁業が盛んな地域である。

3. 研究グループの組織と運営

当女性部は、昭和34年に白浜浦漁協婦人部として設立され、平成15年の漁協の合併後も、釜石湾漁協白浜浦女性部として独立した活動をしている。

現在の部員数は114名で、設立時から規約に「尾崎白浜、佐須に居住する婦人はすべて婦人部に参加する事」とあり、時代の変化により漁家ではない家庭も増えているが、当地区の女性は、全員が部員となっている。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

私達は、以前から合成洗剤追放運動に取り組んで来たが、最近では停滞気味で、思うような実績が上がっていなかった。

しかし、昭和53年に着工した釜石湾・湾口防波堤の完成を平成20年に控え、平成18年中には最終ケーソンの据え付けが終わり、湾口がほぼ塞がれた状態になることが分かっていた。

湾口防波堤の工事が進み、徐々に静穏な海に変わって来た釜石湾で養殖されたカキとホタテは、餌となるプランクトンが豊富で、身入りが良いと評価されている。しかし、釜石市の中心市街地を流れ、釜石湾に注がれる甲子川の流域では、下水道の整備が進ん

でいるのに比べ、私達の地区は、まだ、未整備のままである。

今後も、このきれいな海を守り、豊かな漁場環境を維持して行くためには、まずは自分達で出来ることからやらなければならないと思い、平成 18 年から、身近に実践できる合成洗剤追放運動を原点に帰って進めてみようと考えた。

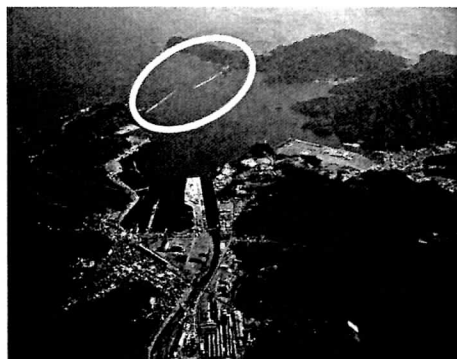


図2 釜石湾・湾口防波堤(国土交通省・釜石港湾事務所提供)

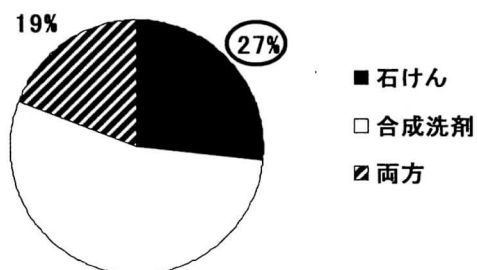
5. 研究・実践活動状況及び成果(または効果)

(1) 実践活動方針の決定

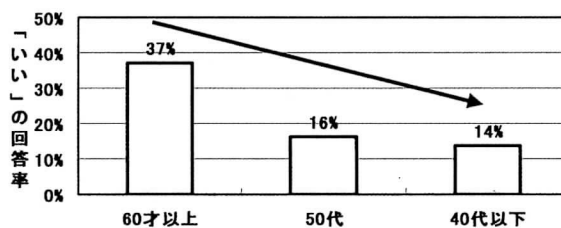
実践活動に入る前に、わかしお石けんに対する意識を調べ、今後の活動方針の参考にするため、平成 18 年 1 月に、部員を対象に、アンケート調査を実施した。

アンケート調査の結果、わかしお石けんだけを使っている人は 27% だけであった。しかし、世代別に見ると、若い世代ほどわかしお石けんだけを使用している人の割合が低く、「臭い」、「洗剤の溶け易さ」、「価格」に対する評価も、若い世代ほど低いことが分かり、若い世代に対する働きかけが必要であることがはっきりした。

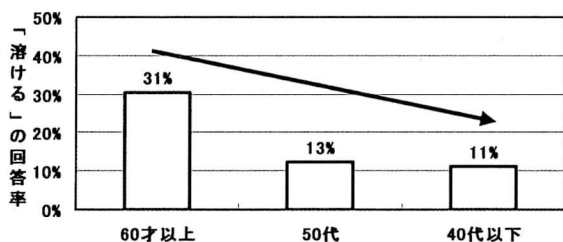
洗濯用洗剤は何を使用していますか？



「いい」の回答率



「溶ける」の回答率



「高くない」の回答率

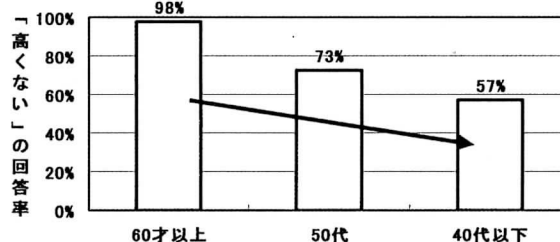


図3 アンケート調査結果

- 更に、アンケート調査票に記入された部員の意見や日頃から部員と接する中で、
- ①世代交代が進み、合成洗剤追放運動を知らない若い人達が増えている。
 - ②発売当初のわかしお石けんに対する「臭い」や「汚れ落ちの悪さ」などのマイナスイメージを持ったままで、改良された現在の製品を知らない。
 - ③わかしお石けんの買い置きが無くなり、スーパーの特売などに目が向き、つい合成洗剤を買ってしまう。

以上、3つの大きな課題があると分かった。その対策として、

- ①若い世代に、合成洗剤追放運動を知ってもらうこと。
- ②改良されたわかしお石けんを知ってもらうこと。
- ③わかしお石けんの買い置きを無くさせないこと。

以上、3つを実践活動の方針として、平成18年から、取り組むことに決めた。

(2) 実践活動状況

ア. 合成洗剤追放運動講習会

平成18年7月に、県漁連から先生をお招きして合成洗剤追放運動講習会を開催した。若い人が参加し易いように、学校行事や浜の仕事忙しい時期を除いて、開催時期を決め、若い人を中心に呼びかけを一生懸命行った。

45人の方に参加していただいたが、若いお母さん13人、そのお子さん10人の参加もあり、うれしく思った。

やはり、専門の方の話は分かり易く、あらためて合成洗剤の恐ろしさを実感した。若い人の中には、「ショック、もう怖くて使えない。」と驚いている人もいた。また、洗濯以外のシャンプーやハミガキ粉等についても話題が広まったが、直接、体につけたり、口に入れたりするものなので、更に関心を持つ人が増えたようだ。

この日の資料とわかしお石けんのサンプルは、参加しなかった部員も含めて全員に配った。



図4 合成洗剤追放運動講習会

イ. 製品陳列の工夫

わかしお石けんの販売は漁協購買部に限られていたので、平成18年1月から、漁協で部員が最も出入りする信用部窓口にて製品を置き、たくさんの部員の目に付くよう工夫した。

窓口にて、値段を表示したわかしお石けんを置くという実に簡単なことであったが、意外に効果は大きく、職員と石けんについての話題が増え、改良されたわかしお石けんの説明が出来るようになった。更に、わかしお石けんを目の前に、「これとこれを下さい。」と言うように、買い易くなり、窓口で買う人が増えた。



図5 信用部窓口

ウ. 一戸一個運動

各地区の班長が各家庭を訪問し、わかしお石けんの注文を取って歩く、一戸一個運動を、

平成 18 年 1 月から、これまで年 3 回だったところを、年 6 回に増やした。

各家庭を訪問し注文を取って歩く方法なので、訪問と訪問の間があまり長くなると、「わかしお石けん」を使い切ってしまう方もあった。そうすると、町での買い物のときに、つい、合成洗剤を買ってしまうことが見受けられたので、対策として、訪問回数を増やしたところ、常に、わかしお石けんの買い置きがある家庭が増えた。

(3) 実践活動の成果

ア. わかしお石けんの売上実績

以上の実践活動によって、わかしお石けんの平成 18 年売上実績は、取り組む前の平成 17 年度の 29 万 4,780 円に対し、49 万 8,000 円となり、1.7 倍に伸びた。一戸一個運動による売り上げも、信用部窓口での売り上げも同じように伸び、2つの実践活動の成果を実感している。

また、これまで、あまり販売実績のなかった「歯磨き粉」、「シャンプー」などの売上実績も上がっており、講習会で話題となった効果があったと思っている。

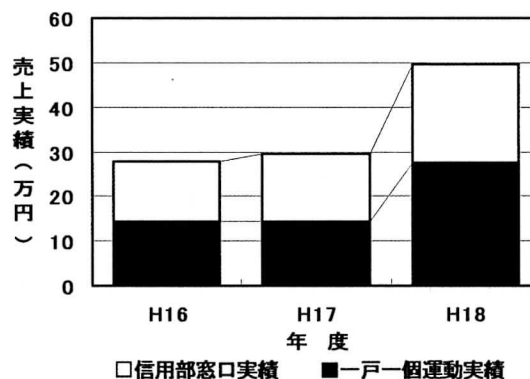


図6 わかしお石けんの売上実績

イ. わかしお石鹸に対する意識の変化

実践活動を通して、わかしお石けんに対する部員の意識の変化を調べるため、2回目のアンケート調査を平成 18 年 9 月に行った。

わかしお石けんだけを使っている人の割合が 27% から 49% に大幅に増えた。年代別に見ても、各年代で増えていた。アンケート調査票に、「以前は合成洗剤を使っていたが、講習会に参加して合成洗剤の害を知たら、怖くて使いたくなくなり、わかしお石けんに切り替えた。」という人が 14 人おり、これは本当に嬉しいことだった。

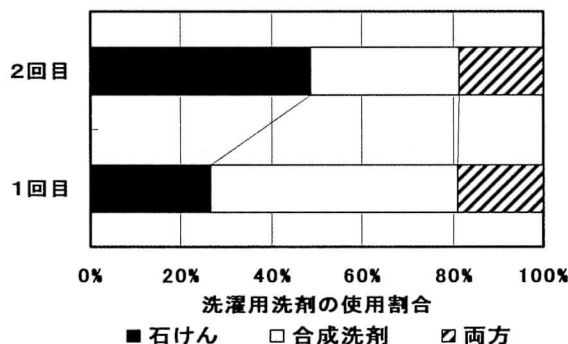


図7 洗濯用洗剤の使用割合の比較

また、わかしお石けんに対する汚れの落ち具合に対する評価では、合成洗剤よりもわかしお石けんの方が、汚れ落ちが良いという評価が 17% から 30% に増えた。実際に、わかしお石けんを使ってもらって、改良された製品を実感した効果だと考えている。

一方、「臭い」や「洗剤の溶けやすさ」などの評価に大きな変化は見られなかった。臭いや洗濯後のぬめりの対策については、講習会で先生から、「漂白剤を入れると良くなります。」というアドバイスももらっていたので、他の意見・質問に対する先生の説明と一緒に、広報誌にまとめ、部員全員に配布した。

6. 波及効果

短い期間の取り組みであったが、わかしお石けんについて、本音や自分が工夫して使

っている点についても話し合われるなど、わかしお石けんの話題が地域全体的に広まり、合成洗剤追放運動の意識が高まったと感じている。

7. 今後の課題や計画と問題点

(1) 若い世代への働きかけ

合成洗剤追放運動を理解してもらうには、講習会に参加してもらうのが一番効果的な方法だと考えている。若い世代への働きかけの方法として、小さい子供を持つ若い人お母さん達が参加しやすいように、学校行事やPTA活動の中で、講習会を開催することを検討している。

最近、嬉しいことに、地区外の新興住宅地である上平田ニュータウンの若いお母さんを中心とした子育て支援サークル、「平田ひよこ教室」で、わかしお石けんをPRする機会があった。この会は平成19年6月19日に、若いお母さん15名と市役所職員6名の合計21名が参加して行われた。講習会のあと、部員2名により、合成洗剤追放運動について説明し、わかしお石けんを持ち込んで、即売も行った。若いお母さんからは、「初めて聞いた。」という感想や、「どこで買えるのか。」といった質問があった。漁業に関係ない、子育て真っ最中の若いお母さん達に、話を聞いてもらい、関心を持ってもらったことを嬉しく思った。



図8 平田ひよこ教室

(2) 釜石市全体への波及

釜石湾のきれいな海を守り、豊かな漁場環境を維持して行くためには、地元だけでなく、多くの釜石市民の方に、この運動を理解してもらうことが大切だと考えている。

なかなか取り組むきっかけが無かったが、平成19年12月2日に、毎年恒例となっている地元水産加工業者合同の水産加工品即売会で、県の水産部の方と一緒に、私達が育てた自慢の大粒カキを使ったカキ汁を無料で振る舞いながら、釜石湾の漁場環境保全の大切さとわかしお石けんをPRする機会があった。わかしお石けんの説明をすると、興味、感心を持って話を聞いてくださる方が多数おり、嬉しく思った。今後も、釜石市民に湾内の漁場環境保全の大切さを訴えて行こうと考えている。



図9 わかしお石けんPR

(3) 贈答品の合成洗剤の取り扱い

アンケートに、「白浜浦地区以外の人から、贈答品として合成洗剤を贈られることが多いが、捨てる訳にもいかない。」という意見を書いている方がたくさんいた。この問題は多くの方が抱えているようだ。今後、対策をどのように進めて行ったら良いかわからない状態で、大きな課題である。